

令和 8 年 9 月 18 日

保護者 様

丹波篠山市立味間小学校

校長 浅田 智広

本校では、本年度の全国学力・学習状況調査（6年生対象）および丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（5年生対象）の結果をもとに、下記のとおり「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しました。今後の授業や学習方法に生かしていきたいと思います。内容をご理解いただき、子どもたちの学習や生活習慣の改善、学校の教育活動に対してご支援をお願いします。

記

令和 8 年度 丹波篠山市立味間小学校 学習や生活に関する学力向上プラン

【調査結果の概要】 調査項目 6年生・・・国語科、算数科学習状況調査、生活習慣状況調査

5年生・・・国語科、算数科学習状況調査、生活習慣状況調査

全体的な状況	
全国学力・学習状況調査（6年生対象：国語科・算数科）	
学習面	国語科→作文の問題では、条件に「自分の考えや経験、文章中の言葉を使って書く」という問題や、「前の文章を受けて例文を選ぶ」という問題では正答率が高い結果でした。しかし、イラストがある問題では文章を正確に読まずに回答してしまったり、4つの条件全てを押さえて作文できなかったりし、課題が見られました。 算数科→グラフを読み取る、決まった3つの整数を使って一番大きい小数を作る問題は高い正答率でした。割合や単位量当たりの問題は全国平均と同程度にできていましたが、問題の文意を正しく捉えることができず誤答している問題があり文章読解に課題が見られました。体積を求める問題では、「体積」の概念が理解できておらず誤答を選んでいました。
生活面	・全国値と比較して「成功体験と自信」「充実感と向上心」「感動体験」「家族のささえ」の観点のポイントが高く、前向きに取り組んだり受け止めたりできることが分かりました。 ・課題としては、「学習習慣」「他者からの評価」の観点が全国値と比較して低い結果でした。

子どもたちに必要な力と学校における取組

【国語科】①読書習慣を定着

②条件を満たし書く力を強化

- ・常に机の中に本を入れ、隙間時間に読書をする習慣を付け、視覚支援がなくても文章を正確に捉えられるようにし、語彙力・表現力を高めます。
- ・1学期から取り組んでいる漢字小テストの結果を可視化し、自分に合った学習方法を更に模索し実施していきます。
- ・考え・経験だけを条件にせず、文章の引用部分などに「」を使う等も設定し文章を書く機会を習慣化していきます。

【算数科】①体積の概念の定着

②問題の文意を正確に捉える

- ・自分の力で解くことができるのかを確かめながら公式の丸暗記ではなく、具体物等を操作して考え、立体をイメージする力を養います。最終的に「自分一人で解ける力」になっているかをフィードバックできる小テストを実施します。
- ・百分率は全国平均程度の理解でしたが、「1.5倍」などの小数倍になると、「ものの量」に対してどの量になるのか理解できない部分があるので、授業以外の生活の中でも体験と結びつけながら小数倍を意識して指導をしていきます。
- ・他教科でもたくさんの語彙や表現のちがいに触れる活動を意識して増やしていきます。文章の意味を図や絵に描いてイメージ化し、文意を正しく捉えられるようにしていきます。また、問題文に印や線を引き、何を尋ねられているのかを明確にします。

【生活面】①学習習慣の定着

②認め合いの強化とキャリア教育で自分を客観視する

- ・様々な学習方法を伝え自分に合ったやり方を知ることで、前向きに学習に向かえるようにします。
- ・互いの認め合い・振り返りの時間を今後ももち、有用感を感じられるようにします。また、キャリア教育を行い、自分を客観的に捉え、自己理解する時間を大切にします。

保護者の皆様にご協力していただきたいこと

① 中学校を見据えた家庭学習の習慣化を

全国平均と比較し、家庭での学習時間が短い傾向にあります。半年後には中学生になり、定期テストなどが始まります。授業の予習・復習を含む家庭学習を大切にし、家庭学習時間（低学年30分、中学年45分、高学年60分）をめやすに学習習慣（計画を立てて学習する力、落ち着いて学習に向かう姿勢）がつくようなご家庭での環境づくりや声掛け等をお願いします。

② 本に触れる時間を

初めて読む文章でも理解できる読解力が求められています。学校でも隙間時間を利用して読書していますが、ご家庭でも読書の時間を作ったり、読む本を親子で一緒に選ぶ機会を設けたりしてください。

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（5年生対象：国語科・算数科）

学習面

国語科→2枚の大きなイラストで違いが箇条書きされているものから情報を得て問題に取り組むことができました。また、話の内容が切り替わる大切な部分に着目して問題を解くことができていました。「修飾語」についての概念が弱かったり、活字離れによる長文の構成理解ができていなかったりすることが見られました。

算数科→「小数を十倍にする」「概数を求める考え方」などは正答率が高い結果でした。「小数を割り切れるまで計算する」「平行四辺形の作図」の問題についてはやや課題が見られました。

生活面

・全体として肯定的な回答が全国平均と同じか上回っていました。特に高かったところは、「先生の支え」「成功体験と自信」などの観点でした。

子どもたちに必要な力と学校における取組

【学習全般を通して】

主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組みます。

授業の中で、子どもたちが疑問に思ったことや自分の考えを積極的に伝え合う場面を設定し、「わかった」「できた」を育む学習集団づくりに努めます。また、朝のモジュール（15分の学習時間）の時間を活かして基礎的な学習や手先を動かす折り紙など、短い時間で集中して取り組める内容を実施します。

【国語科】①読書や修飾語などの文の成分を意識した基本的学力

②話の中心に即し、明確に自分の考えを説明できる表現力

・読書の時間を充実させ、ビブリオバトル（お気に入りの本の書評合戦）などを取り入れて、本に興味を持てるように取り組みます。

・修飾語の有無を考えたりや言葉を別の言葉に差し替えて考えたりして語彙力を高めるように取り組みます。

・スピーチや班活動を通して、話の中心を明確にして自分の考えを発表する機会を増やします。

【算数科】① 基本的な計算能力

②角度や面積を求める力・図形を描く力

- ・計算力を上げられるようモジュールや授業の導入にプリントやタブレット学習に取り組み、基本的な計算能力を高めます。
- ・分度器・コンパス・定規を使う復習問題に取り組み、ペアなどで確認し合うなどして定着を図ります。

【生活面】対人ストレスとうまく付き合う力の育成

- ・様々なメンバーによる活動・学習を通して、折り合いをつける体験を多く取り入れていきます。

保護者の皆様にご協力していただきたいこと

①今まで通りの規則正しい生活習慣を

心も体も成長する過程であるため、現在整っている「早寝・早起き・朝ごはん」や「学習習慣」を引き続き持続できるよう、よろしくお願いいたします。就寝時刻を守り、すっきりとした状態でしっかり朝ごはんを摂り、体だけでなく心も前向きに学習に取り組めるようお願いいたします。また、ゲームや SNS、動画を利用している時間が長くならないように、もう一度ご家庭で利用のルールを確認していただきますようお願いいたします。

②中学を見据えた家庭学習の習慣化を

家庭での学習時間は全国平均ですが、授業の予習・復習を含む家庭学習を大切に、家庭学習時間（低学年30分、中学年45分、高学年60分）をめやすに学習習慣（計画を立てて学習する力、落ち着いて学習に向かう姿勢）がつくようなご家庭での環境づくりや声掛け等をお願いします。

③本に触れる時間を

今後経験する可能性がある入試などになると、初めて読む文章でも理解できる読解力が求められます。学校でも隙間時間などに読書を取り入れていますが、ご家庭でも読書の時間や読む本と一緒に選ぶ機会をつくっていただくことで、読み慣れ、文章を正確に読み取る力につながります。

④家庭での対話を

忙しい毎日ですが、お子様の学校での出来事や学習内容などについて、積極的に聞いていただき、親子でのコミュニケーションの時間を確保していただけたらうれしいです。確保していただくことで、言語環境をより良いものにできることに加え、子どもたちの心の安定につながると考えています。